

ヤマハ「アンペグ」を譲受

米企業からベース周辺機器ブランド

ヤマハは十一日、米国子会社ヤマハ・ギター・グループ（YGG）



アンペグのロゴマーク＝ヤマハ提供

が、ベースギターの周辺機器ブランド「Ampeg」の事業を米企業から譲り受けたと発表した。YGGによる米国を起点としたギター事業強化の一環。ヤマハ製のベースと合わせて拡販を目指す。

アンペグの事業を展開していた業務用音響機器などの製造販売会社「ラウド・オーディオ」から、在庫などの資産や知的財産、中国の委託

ギター事業強化の一環

生産などを含めて引き継いだ。取得金額は非公表としている。

アンペグは一九四六年に誕生したブランドで、ベースの音に効果を加えるエフェクターやアンプなどを手掛ける。ヤマハによると、米国のベースアンプ市場でのシェアは二割強で、米ギター大手のフェンダーに次ぐ二位となっている。

YGGはギター周辺機器を手掛ける「Line 6」を改称して四月に発足。アンペグを取り込むことで、バンド演奏に欠かせないギターとベース両方の周辺機器を供給する態勢が整う。浜松商工会議所で会見したYGGの三田祥二共同社長は「アンペグの伝統的なイメージや音質はしっかり引き継ぎ、時代に合わせたモダンな商品を開発したい」と述べた。

（久下悠一郎）

アンペグブランドのベースアンプ（奥）とヤマハのベース＝ヤマハ提供

